

## 4 今後の取り組み

### 4(1) モデル校での実践と全中学校区への拡大

平成18年度に、第二中学校区をモデル校として、小・中一貫教育校を開設し、着実なステップを踏み、その実践を検証した上で、全中学校区への拡大を図ります。

平成17年度においては、義務教育9年間の一貫したカリキュラムの研究開発を行うとともに、小・中学校の教員による学習指導面での連携や学校行事等を通して児童・生徒の交流活動などを実践します。

平成18年度には、第二中学校区（第二小学校、井口小学校、第二中学校）をモデル校として、小・中一貫教育校を開設します。モデル校での3年間程度の実施期間において、段階的取り組みを行います。小・中学校の接続のあり方や学習活動の充実について、毎年度実施目標と実施方法を定め、その成果と課題を検証しながら、着実な改善と実践を積み重ねていきます。

なお、モデル校での段階的取り組みを進める中で、教育課程の一部において、現行の学習指導要領の基準によらない自由な編成等が必要となった場合には、これを可能とするため、国の構造改革特区制度を活用します。

モデル校での3年間程度の実践を検証した上で、全中学校区への拡大を図ります。モデル校での実施期間中を含め、他の中学校区でも一貫カリキュラムの研究や小・中学校間の実践的な交流活動を進めるとともに、情報提供や研究会の設置、研修会の開催など、必要な取り組みを行います。

### 4(2) 「開設準備検討委員会」の設置

幅広い市民の参加を得て「開設準備検討委員会」を設置し、具体的な検討を行ったうえで、実施案を作成します。

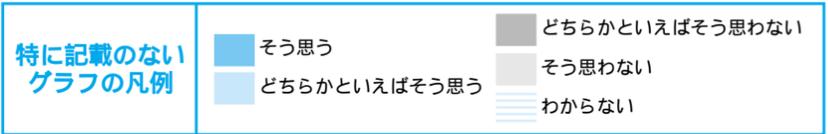
基本方針の策定後に、「開設準備検討委員会」を設置し、基本方針に基づいて、

開設準備にあたっての具体的な検討を行います。この委員会は、学校関係者、PTA・保護者代表、同窓会代表、地域市民代表、公募市民、学識経験者などで構成します。

検討すべき主な課題として、一貫カリキュラムの作成と学習指導方法の充実、教員の指導体制の整備、「コミュニティスクール」の仕組みづくりなどがあります。教育委員会は、「開設準備検討委員会」での検討結果を踏まえて、実施案を作成します。

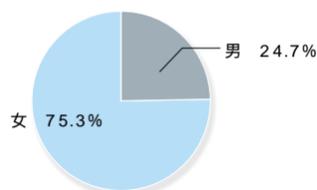
## 三鷹市立小・中一貫教育校構想に関するアンケート調査結果(概要)

三鷹市立小・中一貫教育校構想に関するアンケート調査の実施にご協力をいただきましてありがとうございました。このたび調査結果がまとまりましたので、その概要をお知らせいたします。回答数は、2,163通（広報からの市民の回答1,369通、第二中学校区保護者からの回答794通（別途に実施））でした。調査結果の全容につきましては、教育委員会指導室のホームページに掲載しております。

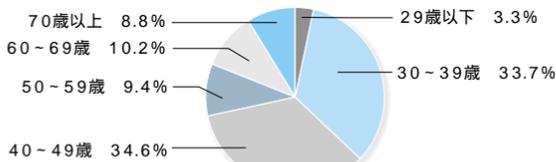


### 回答者の属性について

#### 回答者の性別



#### 回答者の年齢層

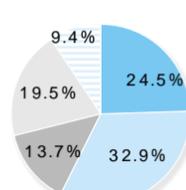


#### 回答者の子どもの通学先

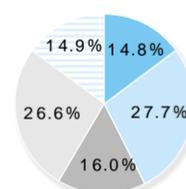


### 義務教育9年間を一貫する「小・中一貫教育校」の考え方について

小学校と中学校でとぎれる指導を、小・中学校教員相互の交流や連携を行うことにより、連続性を持った指導にする必要があると思いますか。

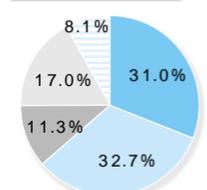


小学校、中学校を通じて、9年間の一貫したカリキュラム（指導計画）で指導することにより、子どもたちの学力の定着や向上が図られると思いますか。

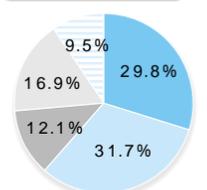


小学生と中学生が、学校生活の中で協力し合ったり、交流を深めることは、互いの成長にとって役立つと思いますか。

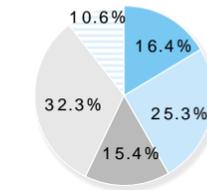
#### 小学生にとって



#### 中学生にとって

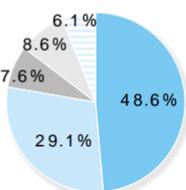


小学校での学習に加えて、定期的又は一定の期間、6年生が中学校校舎で学習するなど交流を図ることは、中学校入学後の学習や生活をスムーズにすると思いますか。

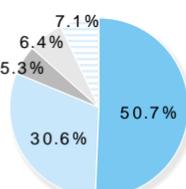


### 「小・中一貫教育校」における学習活動のあり方について

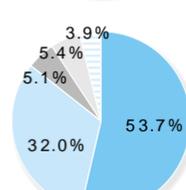
各教科の基礎となる国語や算数について、授業時間数を増やすなど重点化して指導する必要があると思いますか。



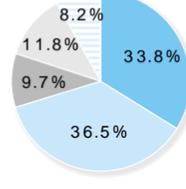
教員と補助教員や教育ボランティアによるチーム・ティーチングでの指導を充実することは、学力の定着や向上につながるとは思いますか。



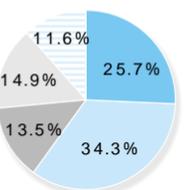
一人ひとりの理解の度合いによる少人数グループを編成し、理解が不十分な子どもには復習的な内容に重点を置き、理解が十分な子どもには応用・発展的な内容について学習することは、学力の定着や向上が図られると思いますか。



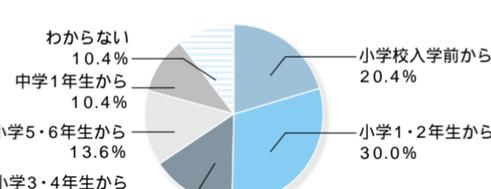
三鷹市の自然や文化、伝統など身近な生きた題材をテーマに取り上げ、子どもたちが9年間を通して学習することは、地域社会の一員としての自覚や愛着心が育つと思いますか。



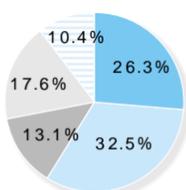
小学校高学年の「総合的な学習の時間」で、子どもが自分で課題やコースを選択して学習することは、一人ひとりの個性・能力が伸びると思いますか。



これからの国際社会に生きる子どもたちの将来にとって、学校での英語の学習は、何年生から始めるのがよいと思いますか。

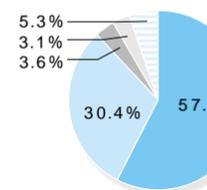


コンピュータを取り入れた学習について、9年間を通してカリキュラムを作成し、実施することにより、操作技能・情報活用能力や情報モラルを養おうとしています。こうしたやり方は効果的だと思いますか。

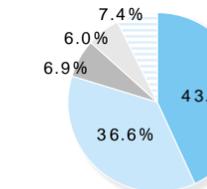


### 三鷹市で考える「小・中一貫教育校」のコミュニティスクールについて

保護者や地域住民等が、地域ぐるみで子どもたちの教育を支えていくことは、子どもたちの健全育成につながるとは思いますか。

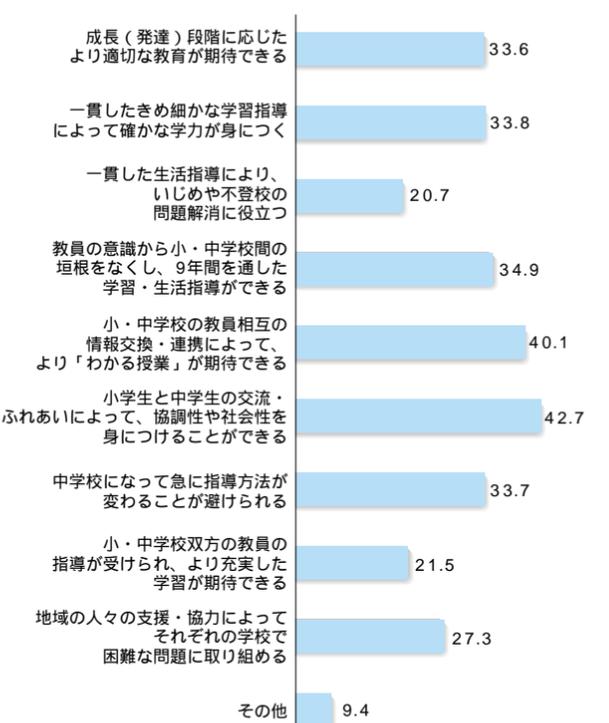


保護者や地域住民等が、学校と教育活動に関する情報を共有し、学校運営に積極的にかかわっていくことは必要であると思いますか。



### 三鷹市で考える「小・中一貫教育校」の教育に対する期待度について

「小・中一貫教育校」の教育に対してどんなことを期待しますか。（複数回答）



### 保護者・市民のアンケート調査結果から

「小・中学校間の教員相互の交流や連携による連続した指導の必要性」は、約57%が肯定的で、約33%が否定的な回答になっています。一方で、「9年間の一貫カリキュラムによる学力向上への期待」は、肯定的、否定的な回答は、同数の約43%で、「小・中学生の交流が互いの成長に役立つかという有効性」については、小学生にとって有効的、中学生にとって有効的という回答が、いずれも62%前後と肯定的な回答の30%前後を大きく上回っています。

また、「6年生が中学校校舎で一時的に学習することで、中学校入学後の学習や生活をスムーズにするか」は、肯定的な回答が約42%となっています。これらの点を踏まえ、6年生と中学生との授業交流については、交流する内容や実施方法などを慎重に検討していきます。

また、「保護者や地域住民等が情報を共有し、学校運営に関わる必要性」は、約80%が肯定的にとらえておりま

す。多くの方が学校運営に積極的にかかわっていくことの必要性について、理解を示しています。

### 児童・生徒のアンケート調査結果から

学校生活では、「授業がわからない」「勉強は好きではない」「何のために勉強するのか考えたことがない」「目標をもって学校生活を送っていない」と答えた子どもの割合は、小学生よりも中学生の方が多くなっています。

日常生活では、学年の進行とともに家庭での勉強時間の減少や読書離れが進んでいます。また、小学校から中学校への接続については、中学校への進学に対して半数以上の子どもたちが何らかの不安を抱えています。

（紙面の都合上、全容が掲載できませんでしたが、教育委員会指導室のホームページをご覧ください。また、指導室（教育センター1階）でも「アンケート調査報告書」を閲覧することができます。）